

体育館に鳴りひびくえんそうのように

御津南部小・4

中西 穂花

「楽器のオーデイションを行います。」

と、先生が言いました。今年度、わたしがけやき発表会でちよう戦したかったのは、美しい音色がみ力のトライアングルでした。でも、希望者は多く、けやき発表会でトライアングルをえんそうできるのは、たったの三人。ぜつ対に合格するぞ、と強く思いました。

チリツ、チリツ・・・あれ、と思いました。どうして音が美しくひびかず、とぎれてしまうのだろう。その日から希望を実現させるために、練習を始めました。家に帰るとまず美しい音色で鳴らすコツを調べました。コツは、三つあります。一つ目は、本体をさわらず、ひもだけを持つこと。二つ目は下の辺をたたくこと。三つ目は、たたいたしゅん間にビーターをはなし、しん動をじやましないことでした。

よく日、学校でそのやり方を試してみると、チリーン、チリーン・・・と、きれいな音が鳴りました。よし、この音だ、と納得できる音を鳴らせるようになりました。この感覚をわすれずに、時間のゆるす限り、ビーターをにぎり続けました。

オーデイション当日、音をきれいにひびかせ、リズムよくたたけました。しかし、最後のタイミングがずれてしまい、結果は落選。

それでも、みんなといっしょにえんそうがしたい気持ちをおさえられず、

「けんばんハーモニカにちよう戦したいです。」

と、先生にお願いしました。

「ちようど人が少なかったので、ちよう戦してみよう。」

と、答えてくれました。また、わたしのちよう戦が始まりました。わたしは、トライアングルと同じ失敗はしないぞ、と心にちかい、練習を始めました。それから努力の日々です。けやき発表会では、えんそうの他にも、せりふや歌などの発表があります。学校の休み時間や家に帰ってから練習しました。特に大切にしていたのは、タイミングがずれないように、楽ふを見ながら、リズムを練習することです。つらいと思ったことがありますが、友達のことです。なめらかで上手だね、とても音が合わせやすいよ。」

という一言や、父や母の

「昨日より上手になったね。」

という一言、弟が練習中にいっしょに手びょう子でリズムを合わせてくれたことなどが、わたしに大きな力を与えてくれました。

オーデイション当日、練習成果を十分に発きし、見事合格できました。その後に行われた全体練習では、わたしのけんばんハーモニカとピアノ、みんなの手びょう子や、楽器の音が合わさってはく力のある音楽になりました。そのとき、わたしはみんなの練習してき姿が目にかび、わたしのさらなるやる気につながりました。

いよいよ、けやき発表会当日。わたしの出番は、けんばんハーモニカと、リコーダー、せりふと歌です。発表が近づくにつれ、わたしはこどうが早くなるのを感じました。となりを向くと、いつもの友達の姿があり、落ち着くことができました。

「ワン、ツー、ワンツースリーフォー」

のかけ声で広い体育館にリズムのある手びょう子、美しい音色のピアノ、きれいな楽器の音がせい大にひびき渡りました。わたしのけんばんハーモニカの音も合わさることで、むねがわくわくした気持ちと、自信があふれ出しました。その後のせりふや歌も楽しい気持ちで最後までやりとげることができました。観客席を見ると、お母さんがにこにこはく手をしてくれました。

「みなさん、全員がとても立派にやりきった発表でした。お疲れ様でした。」

とほめてくれました。お家の人たちにも、わたしたちの精いっぱい姿を見せることができ、大成功で終わることができました。

わたしはこの発表会を通して、学んだことが三つあります。一つ目は、努力をしても失敗することがあること。しかし、またちよう戦することが大切なこと。二つ目は、自分一人の努力より、みんなの努力が合わさった時の方が感動が大きいこと。三つ目は、努力には、つらい時もあるけれど、わたしには、友達や、家族の支えがあることです。

これからも様々な場面で努力を続け、成長していきたいと思えます。あのときの体育館に鳴りひびいた演奏を思い出して……。